

原著情報 Kida, R., & Takemura, Y. (2022). Working Conditions and Fatigue in Japanese Shift Work Nurses: A Cross-sectional Survey. *Asian Nursing Research*, 16(2), 80–86.

DOI : <https://doi.org/10.1016/j.anr.2022.03.001>

---

タイトル 日本の交代制勤務看護職における労働状況と疲労感との関連：横断研究

要約

- 目的
- ・ 交代制勤務種別ごとの疲労感と関連する要因を探索すること
  - ・ 休日数の多少ごとの疲労感と関連する要因を探索すること
  - ・ 疲労感と関連する要因の閾値を明らかにすること
- 方法
- ・ 47 病院 4,601 名の交代制勤務看護職を対象とした無記名自記式 web 質問紙調査
  - ・ 疲労感は尺度得点を二値化して従属変数として使用
  - ・ 交代制勤務種別（二交代制、三交代制）、休日数（10 日未満/月、10 日以上/月）それぞれで二項ロジスティック回帰分析（ステップワイズ法）を実施
- 結果
- ・ 二交代制では、日勤帯の日常的な労働時間（閾値：9 時間 50 分）、夜勤帯の日常的な労働時間（閾値：17 時間 15 分）、月当たりの夜勤日数<sup>†</sup>（閾値：8.0 日/月）が有意に疲労感と関連していた
  - ・ 三交代制では、深夜勤帯の日常的な労働時間（閾値：9 時間 45 分）、月当たりの深夜勤回数（閾値：2.9 回/月）、月当たりの短い勤務間インターバル回数（日勤→深夜勤）（閾値：2.0 回/月）が有意に疲労感と関連していた
  - ・ 休日数 10 日未満/月では、日勤帯の日常的な労働時間（閾値：9 時間 20 分）、夜勤帯の日常的な労働時間（閾値：17 時間）、月当たりの夜勤日数<sup>†</sup>（8.0 日/月）が有意に疲労感と関連していた
  - ・ 休日数 10 日以上/月では、日勤帯の日常的な労働時間（閾値：9 時間 10 分）、夜勤帯の日常的な労働時間（閾値：17 時間 50 分）が有意に疲労感と関連していた

<sup>†</sup>二交代制の場合、1 回の夜勤は 2 日とカウント、三交代制の場合、準夜勤、深夜勤それぞれ 1 日とカウントした。